

「九州ICT広域連携シンポジウム2014」を開催しました

九州総合通信局（局長:上原 仁）は、平成26年12月12日（金）に一般社団法人九州テレコム振興センター（KIAI）と共催で福岡市のTKP天神駅前シティセンターにおいて九州ICT広域連携シンポジウムを開催しました。



ビッグデータは、ビジネスでの利用だけではなく、経済現象の分析に利用するための研究が進められるなど、その応用範囲を広げつつあります。

このシンポジウムでは、ビッグデータに関する研究などの最新動向及び新たな課題に対する取組について各研究者から紹介するとともに、今後のビッグデータの利活用の展望について、パネルディスカッションを行いました。

【講演】

- 「ビッグデータ活用のオモテとウラ」 株式会社ネクスト 清田 陽司 氏
ビッグデータ解析技術の最前線を概観するとともに、ビッグデータ活用の負の側面である「プライバシー侵害」や「自己決定権の侵害」を乗り越えるために行われている取組を紹介。
- 「オープンデータによる経済予報」 国立情報学研究所 水野 貴之 氏
消費者の購買履歴、店舗の価格改定履歴、市場取引データ、企業財務データなどのデータを詳細に分析することで、経済活動の中で起こるブームの法則性を解き明かす研究について紹介。
- 「ビッグデータの配送を支えるネットワーク技術」株式会社KDDI研究所 北辻 佳憲 氏
スマートフォンなどから生じる様々なデータは膨大な量となり、円滑なデータ流通が困難となる恐れがある。通信品質を考慮しながら、高い転送効率を実現可能とする研究開発を紹介。
- 「ビッグデータの利活用を促進する新世代ネットワーク」情報通信研究機構 西永 望 氏
IoT や M2M に代表される”モノ”が生成する大量の”ビッグデータ”を効率的に流通させ、新しいサービスを素早く実現できる「新世代ネットワーク」を構築するための技術を紹介。

【パネルディスカッション】

ビッグデータの更なる利活用に向けてディスカッションを行ったところ、ビッグデータの利活用によりもたらされる価値として、SNSなどの人的ネットワークで多くの情報を共有することで生まれる価値、オープンデータなどのビッグデータ活用でもたらされる社会的利益、大量のノウハウの蓄積による技術的価値など、これからも利用者の新しい活用により多くので価値が生まれてくるとの見解に至りました。



お問い合わせ先：情報通信連携推進課（096-326-7314）